

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4073800469		
法人名	社会福祉法人 同朋会		
事業所名	グループホーム 国分		
所在地	福岡県太宰府市幸都2-8-12 (電話) 092-918-8288		
自己評価作成日	平成 30 年 8 月 25 日	評価結果確定日	平成 30 年 11 月 30 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様がその人らしく生活できるような環境作り、生活リハなどを支援しています。
ご家族様との繋がりを大切にして利用者様の思いを叶えると共に、ゆったり感を持った生活を心掛けています。
また、天候の良い時期は、バスハイクやドライブ、散歩など外出の機会を増やし、季節感を感じて頂けるように配慮いたしております。
当ホームでは終末ケアは行っていませんが、同法人内に老健や特養があり、ご利用者の状態に応じて施設を移動することが可能となっています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.fsw.or.jp/kohyo/top.html
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	平成 30 年 9 月 11 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

国道や高速道路に面した、閑静な場所の敷地内の4階建ての茶色い建物の施設の3階と4階に位置する。敷地内には、同法人の介護老人保健施設・ケアハウスが隣接している。ゆったりと過ごすことができる居間があり、使いやすさを考慮して、居間や居室の環境を整えている。利用者が安心して、穏やかに生活できるように、利用者に寄り添い、気持ちを込めて関わりをもっている。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	おひとりおひとりと向き合い、傾聴受容の姿勢を心がけ、「地域との交流の中で、その人らしい暮らしの支援」に取り組んでいる。又、GH会議等で情報を共有し実践に繋げている。	地域密着型の視点を取り入れた、事業所独自の理念がある。フロア会議で理念について、職員間で話し合う機会をつくっている。理念の実践に向けて日頃のケアや言葉かけに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当施設の共用スペースを利用し、地域の小学生や幼稚園児、地区ボランティアの方々との交流が定期的に行われている。又ご利用者ご家族にもイベントや外出行事の参加案内を行っており、日常的に交流を行っている。	保育園の園児や小学校の子供達と交流する機会をつくっている。懐メロバンド等年数回ボランティアの訪問がある。法人全体の秋祭りには、地域住民の参加が多数ある。同敷地内の施設だけではなく、日常的に地域交流を進める努力を試みているところである。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通して、地域の方々の理解を得ている。又同朋会秋祭りなどで実践し地域貢献に取り組んでいる。民生委員が参加する推進会議では事例検討会を実施し、認知症ケアのポイント等もお伝えしている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的（2か月に1回）に開催しており、外部の方々（地域自治体、民生委員、市役所介護保険課、ご家族、施設職員）との意見交換を通じて、情報サービス向上・スキルアップに努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者やサービス状況の報告をしている。入所者が意欲をもつことにより生活向上ができた等、症例報告もしている。嚥下体操について等、会議の中で出た意見をサービスに活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の中で身体的問題の相談、ケアの進め方などアドバイス・指示を仰いでいる。通達された事には迅速に対応できるようにしている。	日頃から、運営推進会議以外で行政と連絡する機会が多い。行政窓口に出向いたり、電話で相談や空室等の報告等行ったり、協力関係を保つことができるようにしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上、夜間のみ玄関施錠を行い対応している。又、月に1回の身体拘束廃止委員会に参加し、正しい認識の理解が出来る。現在、身体拘束は行っていない。	日中居室や玄関に施錠はしていない。利用者の外出傾向を把握し、見守りや付き添いを行っている。施錠以外の身体拘束は行っていない。法人の身体拘束の勉強会に参加しており、資料は全職員で回覧するようにしている。研修記録や報告書等はない。	身体拘束研修の研修記録や報告書を整備するよう努めてもらいたい。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	GH会議、フロア会議などで虐待について学ぶ場を設けており、虐待防止の徹底を図っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会を通して学び、支援出来るよう取り組んでいる。	権利擁護について、家族への説明は必要時に行っている。権利擁護について市のセミナーに参加している。全職員に資料の回覧をしている。研修記録や報告書等はない。	家族への権利擁護についての説明を契約時や家族会で行い、権利擁護の研修記録や報告書を整備するよう努めてもらいたい。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書などで説明し、十分な納得を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会などの場を通じて意見・要望などを伺い、運営反映に心がけている。又面会時にも直接口頭でお伺いし、確認の場を設けている。1階エレベーター前にご意見箱も設置しており、意見を頂きやすい様工夫を行っている。	職員や管理者は、日常生活の中で、利用者の要望や意見を聞くように心がけている。朝食をパン食にする等利用者の意見を反映するようにしている。家族会は年1回開催している。職員は、面会時や電話で、家族の意見を聞き、空調設定やケアに関すること等家族から出た意見を反映するように努めている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のGH会議を通じて、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けている。又、運営責任者による職員面談を定期的に行っており、反映に繋げている。	自己評価は、全職員の意見を取り入れて作成した。管理者はフロア会議や個別で職員の意見を聞くようにしている。会議に参加できない職員には書面で事前に意見を出してもらっている。職員が意見を言いやすいように、管理者のほうから声かけをしている。職員から出た意見は、すぐに取り入れるようにしている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の特技を生かし、役割等を考慮して個別ケア、環境整備に生かしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別・年齢は採用の対象にはしていない、但し、ヘルパー2級以上の有資格は必須となっている。社会保障も充実しており、個々の職員が生き生きと働ける環境が整っている。	採用選考は、法人の本部が行っている。性別や年齢等特定に理由で採用対象から排除していない。資格取得がしやすいように、勤務を配慮したり研修の案内をしている。定年後希望があれば、契約社員で働くことができる。職員が働きやすい職場環境づくりを目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	全体会議などを通じて触れ、ご利用者への接し方は、職員一人一人が十分に配慮し、対応を行っている。	一部の職員が人権に関する法人の研修に参加している。資料の回覧は全職員に行っているが、研修記録や報告書はない。	人権研修についての研修記録や報告書を整備するよう努めてもらいたい。
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修、地域医療連携研修、並びに資格研修など業務に支障のない限り参加している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	Fukuoka医療・介護ネットワークへの参加や近隣の同業者との情報交換は必要に応じて行っている。同法人内のGH間の交流は深い。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	以前の生活環境や生活歴を基に、コミュニケーションを図りながら信頼関係を築き、ご本人が安心出来るよう生活支援に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時アセスメントの段階で、ご家族に心配事などを伺い、ご家族へのサポートも大切に考えケアを行っている。日頃からご家族に声掛けを行い、コミュニケーションを図った上で、良好な関係づくりに取り組んでいる。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の話を丁寧に聴いて、必要としている支援内容を見極めを行っている。又当ホームの利用に繋がらなくても、その方にあった支援のアドバイスをし、他事業所とも連携を行って、その方の支援に取り組んでいる。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活全般ご利用者と共に行い、今まで培ってきた事を教えて頂きながら、共感共生に基づいて生活を行っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と情報共有し、良好な関係を築いた上でサービス提供を行っている。状態の変化があった時にも、報告を密に行い、その方にあった支援内容を一緒に考えている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の居住地や馴染みの場所へお連れしたり、ご友人をこちらへ招待するなど、関係の継続に努めている。	職員は、事前に利用者の馴染みの場所や人について、利用者や家族から情報を得ている。電話での連絡を取り持ったり、知人に訪問してもらう等つながりが継続できるようにしている。利用者の自宅の近所にドライブに行き、その時近所の人と話をしたり、地域と関係が継続できるように努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活を通じて関わり合いを持ち、ご利用者の状態・状況に応じて支え合えるような支援に努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方にも、時には面会をしたり関係継続に努めている。退所者ご家族とも行事参加などを通じて交流が続いており、その後の経過について相談・支援の関係を保っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活歴などを基に心地よく興味を持たれ、いきいきとした生活が出来るよう支援している。	利用者に寄りそい丁寧に話を聞き、本人が望む生活は何かを考える支援を行うようにしている。例えば好みの化粧品やお気に入りの服装の選定、難聴の方にボードを使いストレスなくコミュニケーションをとれるよう配慮する等、その人らしい暮らしの支援をしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の暮らし方・生活環境は、ご本人・ご家族から入所時に情報収集に努めている。又、以前おられた介護事業所の相談員や担当者から情報を得ており、経過等の把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にあセスメント・モニタリング・評価を行いながら情報の把握・共有に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の現状・生活歴等を基にケアカンファレンスや担当者会議を行い、ご家族の思い・希望等を反映してケアプラン作成を行っている。	3か月に1回のモニタリングで介護計画の見直しをし、利用者の現状・生活歴等を基にケアカンファレンスや、担当者会議を行い、家族の思い・希望を反映してケアプランの作成をしている。意思疎通の難しい利用者については家族の意見を反映させる計画となっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいたサービスの記録記入、また気づきがあれば色分けし、次回ケアプランに生かせるような取り組みを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに添って、ご利用者の状態に合わせた柔軟な支援の取り組みを心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアのサポートを頂きながら交流の場を持ち、利用者の方々が楽しめるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約医療機関と連携し、利用者の急変があれば直ちに相談等出来る関係を築いている。	契約医療機関と連携し、月2回の訪問診療を行っている。入所前のかかりつけ医への受診が縁遠くなった時点で協力病院への移行を進め、適切な医療を受けられるよう支援している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師の配置はないが、併設看護師（老健）に相談を行いアドバイスを受ける事はある。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃からかかりつけ病院のソーシャルワーカーと連絡を取り合い、ご利用者が安心して治療できるように努めている。又そうした場合に備えている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームでの看取りは行っていない。同法人内特養・老健への移行は、法人相談部会で話し合いの場を持ち支援に取り組んでいる。	医師・看護師が常駐していないリスクを説明し、重度化した場合には法人内の特養・老健への移行を視野に入れ法人相談部会で話し合いの場を持つことを説明している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送マニュアル作成を行い、防災訓練時に緊急連絡網の確認を行っている。全職員施設内外の研修を通じて、救急時に備えている。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練（年2回）を行っている。非常階段は使用できない利用者が多いので、まずベランダへの避難誘導している。隣接の住宅との話し合いは行っていない。	年2回の避難訓練を行っている。火災については、コンセントのほこり除去等、予防に重点を置いている。非常用備蓄は1階倉庫に法人全体の備蓄品を用意している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬い、個人の誇りやプライバシーを大切にされた対応を行っている。定期的に行われる接遇委員会の参加を通じて、全職員の共通認識として丁寧な対応を心掛けている。	利用者の尊厳を損なうことのないよう、特に声掛けには注意するとともに、プライバシーを尊重した対応を行っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を確認しながら、自己決定・自立支援を行っている。表出が難しい方には、ご本人が理解しやすい形での確認の仕方を工夫している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れはあるが、日々の体調に考慮し、また個人の意思に寄り添った対応をベースに過ごして頂いている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出する際におしゃれ着を一緒に選んだりしておしゃれを楽しむように支援している。ご家族様の協力もあり、季節に合わせた服装が出来るように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物・料理・盛り付け・配膳・下膳・片付けなど、ご利用者の方が出来るお手伝いをお願いし、役割を担いながら、楽しんで頂けるよう支援している。	朝食と夕食は法人からの配食だが、昼食は各フロアで職員が献立を考え、準備や片付け等利用者ができることを一緒にしながら、利用者と共に食事を楽しむ支援をしている。利用者の重度化で利用者ができる部分が少なくなっている現状がある。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記入を行い、体重の増減に気を付けながら栄養管理を行っている。自由に飲めるようにしているが、提供の時間も設けている。またこまめに水分補給促す声掛けもしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア（うがい）等の徹底、又、夜間は義歯をお預かりし、口腔内の清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて排泄チェック表を使用し、その方の状態に応じた排泄支援・排便コントロールを行っている。失禁があった場合は、清拭や洗浄などで清潔保持を行っている。	必要に応じて排泄チェック表を使用し、利用者の排泄パターンを把握しトイレでの排泄を支援している。失禁の際はシャワー浴、清拭で清潔保持に努めている。重度化による便意・尿意の自覚のない利用者には紙パンツ・パット使用してもらっている。汚さず排泄できた時は利用者と共に喜んでいる。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事時栄養を吸収しやすいよう、その方に応じた食事形態での提供を行い、飲食物の工夫を行っている。又、日課として運動を取り入れ便秘予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	ご本人の意思を確認しながら週2～3回入浴を提供して。ご本人の気分やタイミングに合わせた提供や、シャワー浴の提供、翌日に持ち越して入浴の支援を行ったりしている。	週3回の入浴を行い、必要時に足浴、シャワー浴、清拭を行っている。いつでも入浴できるように毎日入浴準備はしている。ゆっくり入浴を楽しんでもらうため、入浴時間は午後を設定している。利用者の気分やタイミングに合わせ、翌日に持ち越しての入浴も行っている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状態に応じて休息の時間を設けている。夜間は安心して気持ちよく眠れるよう、空調管理や衣類選択を行っている。日中はアクティビティ活動の参加を勧め、昼夜逆転しないように取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬のないようダブルチェックを実施しながら服薬支援を行っている。また、ご利用者の様子を日々観察し、変化に気をつけ、必要に応じて医師にも相談を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫み物や作品制作など生活歴を考慮して支援を行っている。時には希望の夕食等にも出かけている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一緒に買い物に外出したり、外食や施設敷地内外を散歩したりと、その方の希望にそって支援を行っている。またご一緒に出掛けられるようご家族に声掛けも行っている。	週1回の散歩や、月1回の買い物、ドライブ等の外出の支援を行っている。家族にも一緒に外出してもらうよう働きかけをしている。病院受診の際、遠回りしてドライブを楽しんでもらう工夫をしている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に出かけた際、可能であれば支払いもご自身でして頂けるようその方の状態に合わせて支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけて頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り物などの展示を行って季節感を取り入れる工夫をしている。環境整備担当者を中心に、リラックスして安心して過ごせる空間作りに努めている。	環境整備係の担当者を中心に環境整備をし、利用者の作品等を展示している。例えば、掲示物にどの利用者の作品か分かるようにし、訪問した家族に喜んでもらうようなレイアウトにする等の工夫が感じられない。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やリビングなど思い思いの場所でくつろぎ生活して頂けるよう、心地の良い居場所づくりに取り組んでいる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人の思い出の品や使い慣れた物などをご持参頂き、安心かつ安全に過ごして頂けるよう工夫を行っている。	利用者手作りの作品を部屋に飾ったり、座り心地のいい椅子を置く等、なじみのものや、思いでのものを使用し、居心地よく過ごせる工夫をしている。安全のためベランダのセンサー設置しているが、センサー感知した際、さりげなく入室し一緒に夜空を眺めるなど、不安な気持ちにならないよう工夫している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能がわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	迷われないよう建物内に、居室やトイレ・浴室への案内表示板を設置して見守りを行っている。衣類整理しやすい様、居室内のタンスには仕分けテープを用い、又収納場所が分かる様厨房内にもテープの活用を行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
			○	③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている		
			○	② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が		
				② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が		
				② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が		
				② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域との交流の中で、その人らしい生活の支援」を事業所理念に取り入れ、GH会議等で共有し実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアの受け入れを行い、同敷地内ケアハウスなどと交流も図っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通して、地域の方々の理解を得ている。又同朋会秋祭りなどで実践し地域貢献に取り組んでいる。民生委員は参加する推進会議では事例検討会を実施し、認知症ケアのポイント等もお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に行われる推進会議の中で、年中行事の説明、お誕生会他報告 事故報告問題の開示、検討事例会を議題として取り上げ、今後のサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の中で身体的問題の相談、ケアの進め方などアドバイス・指示を仰いでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて全職員が理解し取り組んでいる。建物の構造上、ユニット玄関を出るとすぐにエレベーターがあり危険性があるためご家族様には説明し理解して頂いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	G H会議、申し送り等において人としての支援、問題なども常にご家族に報告、共有し理解して頂いている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域（市）の学ぶ機会を利用。参加はしているが今までに繋げる方はいなかった。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約、説明の徹底は常に時間をかけて行っている。料金改定時も文章にて送付、理解・納得して頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置はしているが、利用料支払い時、又はケアプランの作成に於ける要望などを聞きその都度希望に添える様に反映している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの提案があれば、フロア会議などで話し合い反映している。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の特技を生かし、個別ケア・環境整備などに生かしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用に関しては管理者はあたらなが1人1人のキャリア、人材育成には心掛け、いきいきと働ける環境が出来ている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	まずは身近な申し送り、フロア会議などで人権尊重の話題に触れている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修、地域医療連携研修、並びに資格研修など仕事に支障のない限り参加している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	Fukuoka医療・介護ネットワークへの参加や、近隣の同業者との情報交換は必要に応じて行っている。同法人内のGHの交流は特に深い。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人がこれまで過ごしてきた生活歴・趣味などを基に、ご本人の希望を少しでも支援出来る様関係づくりに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の要望はしっかり受け止め、小さい事からお互いに共有し、今後に繋げている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	リハビリが必要な方などは、併設老健のリハビリスタッフのアドバイスを受けながら支援・納得に近づける様、努力している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	台所仕事（茶碗洗い、包丁によるキザミ、味見）掃除、洗濯物干し等、日頃の生活を共に寄り添いながら生活している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へも行事（外食、ドライブ他）参加のご案内をしており、一緒に楽しまれている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人等のご面会の受け入れも行っている。いる。また同敷地内のケアハウスから来られる時もある。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人お一人得意な事や出来る事をお勧めし、手分けしながら日常生活を支えあっている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の施設に入所されても職員が様子伺いに尋ねている。また、家族のフォローも行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人が望む暮らしとは何かを考え、おしやれな方は化粧品、洋服等の考慮。時には食べたい物を聞き外食等に繋げている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴は大切にしている。裁縫、料理、掃除、書道など生き活きと生活が出来る様努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ないと決めつけず一緒に過ごしなが出来る方には個別に支援している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の現状、生活歴等を基に話し合いの場を持ちご家族の想い、希望等を反映してケアプランの作成をしている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを基に日々のケースを記録。気付きがあれば色分けし、職員同士情報の共有を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに添い、利用者本人、職員と一緒に柔軟な取り組みをしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア受入れの強化、持続性を繋げていける様、担当者を置き交流の場を展開している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院、訪問診療（月2回）の往診を受けている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師の配置はないが併設看護師（老健）の指示を仰ぐこともあり。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先のソーシャルワーカーとの連携を大切にし、今後の備えに努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームでの看取りは行っていない。併設の特養、老健への移行に関しては、法人相談部会の場を持ち、連携支援をしている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送マニュアル作成、緊急連絡網の徹底、併設（老健）等の勉強会の参加。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練（年2回）行っている。非常階段は使用できない利用者が多いので、まずベランダへの避難誘導している。隣接の住宅との話し合いは行っていない。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者様への言葉使いや態度に留意しながら対応している。又、個人情報の管理は、周知徹底している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状態に合わせて、気持ちに耳を傾け解りやすい言葉掛けで自己決定しやすい場面を作るようにしているが、なかなか希望に添えていないという不安な思いもある。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、個々の生活ペースを大切にしている。認知症により、意欲低下がみられる方に対しては、気持ちに寄り添いながらゆっくりと過ごして頂く様にしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出する際におしゃれ着を一緒に選んだり化粧の手伝いを行い、おしゃれを楽しむように支援している。ご家族様の協力もあり、季節に合わせた服装が出来る様に支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食事の希望も取り入れ一緒に準備、片付け、収納等幅広く協力しながら生活している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記入、体重の増減に注意し、水分補給は時間に応じて補給して頂いている。また本人が自由に飲用できるようになっている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア（うがい）等の徹底、また夜間は義歯をお預かりし、口腔内の清潔を保持している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、必要な方には時間を見てトイレ誘導をしたり、職員に訴え掛ける様な視線を逃さないよう心掛け、個々に合った対応に努めている。失禁があった場合は、シャワー浴、清拭を行い、清潔の保持に努めている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	都度、排便のコントロール、食事の工夫、水分補給の他にも日常生活の中で、少しでも身体を動かす機会を増やせるよう心掛けている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	個々の身体状況に合わせ、週2～3回入浴を提供している。状況によってはシャワー浴、足浴、清拭を行い、清潔の保持に努めている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、体調や状況により、自由に休息できるように見守りを重視している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬には十分気をつけ、服薬して頂いている。誤薬のないよう声を出し、他の職員にも伝わる様にしている。また、利用者の様子を観察し、変化に気をつけ時には医師にも相談している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫物、作品制作、生活歴を考慮して支援。時には希望の夕食等にも出かけている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物にも一緒に外出。また近くの公園にもよく散歩。またご家族にも一緒に外出して頂くよう声掛けなど行っている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどのの方が自己管理が出来ない為、本人様が欲しい物がある時は、ご家族様に相談し一緒に買い物に出掛け職員とレジを通ります。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々で希望があれば、電話をかけて頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	当ホームは環境整備には気をつけている。環境整備係をつくり、自然と会話が弾み居心地の良いリラックスした空間で過ごせるような工夫をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同志が、気兼ねせずリラックスした雰囲気の中でいつでも雑談できる空間を作っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居宅で使い慣れた愛着の有るものや好みのものを使用して頂き、ご本人様が、居心地よく安心して生活できるようにしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合った身近で出来る事を探り、声掛け・見守りをしながら、無理せずに行って頂けるようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
			○	③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている		
			○	②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		